



「常に全力」と最初から頑張りすぎてペース配分を誤ったり、苦しい時に「あともう少しだけ」と自分を奮い立たせたり。走り切った自分をほめてあげたい気分になったり、思うように結果が出ず悔し涙をながしたり。苦しさを乗り越えた子どもたちは、満足、悔しさ、いろいろな思いで自分を見つめ直しているのでしょう。だから、マラソンを通して、子どもたちは一つまた成長するのです。

## はい。いいマラソン大会でした。

12月4日のマラソン大会には、たくさんの応援をありがとうございました。たくさんの子が、この日、自己ベスト記録を更新しました。保護者の拍手の前では知らず知らずペースアップする子どもたちに、応援がもつ力の大きさを感じました。

さて、保護者の方が帰られた後、校内放送で閉会式を行いました。閉会の挨拶では、教頭が次のように話しました。

みなさんは4月に種を蒔きました。その種の名前は「がんばりの種」といいます。休み時間には、運動場で走ったり、ドッジボールをしたりして、体をしっかりと動かして元気な体づくりをしましたね。でも、だんだんと暑くなると、外へ出ることができなくなりました。そんな時でも、みんなが蒔いた種は、土の中で地面に出る準備をしていました。

2学期になり、少しずつ涼しくなってからは、また、みんなの走る姿が運動場に戻ってきました。走る人も増え、土の中から「がんばりの芽」が出てきました。その芽は、毎日毎日成長していきました。休み時間には、「今日は4周走ろう」「歩かずに走ろう」とめあてを立てて走る人もいましたね。

そして今日、4月に蒔いた種は、ぐんぐんとのびて葉っぱを広げ、大きな花を咲かせました。途中で「しんどいな」「苦しいな」と思った人もいるでしょう。それでも、これまで育てたがんばりの力で、あきらめないで走り切ることができました。自分の記録が出せてうれしい人も、反対に悔しい人もいますが、「がんばった」ことに変わりはありません。

そこで、大きながんばりの花を咲かせた自分をしっかりとほめてほしいと思います。今年も自分に大きな拍手を送りましょう。(拍手)

そして、みなさんの周りには、「がんばって」と励ましてくれた友達がいます。力強い拍手で力が湧いた人もいますね。励ましの言葉を送ってくれた、クラスの友達や、ちがう学年の友達にも、応援してくれてありがたいの気持ちを込めて、大きな拍手を届けましょう。(拍手)



教室の窓を開けた校舎の中に、子どもたちの拍手が響き渡りました。保護者の方から、友達から、そして自分自身から、水のように拍手のシャワーを浴びた子どもたちの種は、また芽吹き、花を咲かせていくのでしょう。

## その日の夜

マラソン大会の日の夜のこと。地域の方からお話をおうかがいすることがありました。知り合いがマラソン大会の様子を耳にしたそうです。

その知り合いの方は、この日がマラソン大会だとは知らなかった。何気なく子どもたちの走る様子を見てみると、最後まで走っている子のところに友達が駆け寄って、ゴールまで伴走しているのが目に入った。その光景を見て「わしは、涙がでそうやった。」と言っていたそうです。

私に話しかけてきたその方は、「ええマラソン大会やったんやなあ。」としみじみと言ってくれました。はい。いいマラソン大会でした。